

---

# ボクの気持ち

シュウヤ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ボクの気持ち

### 【Zコード】

N7579A

### 【作者名】

シユウヤ

### 【あらすじ】

君が『卒業するまで誰とも付き合わない』って言ったから僕は卒業まで君を想い続けるよ。

## 第1話・気持ち（前書き）

はじめて書いた小説です。評価などいただけたら光栄です。

## 第1話・気持ち

春の心地いい風が吹き抜ける夕方の公園に制服姿の人影がふたつ。

「なあ、いつになつたら告るんだよ?」

「卒業するまでしねえ!」

俺は夕焼けのせいでおレンジ色に彩られた空を見上げながら悪友で  
あり10年来の親友でもある修也に言った。

「なんで? 卒業までつてーあと2年もあんだけー!」

驚いたと黙つつか呆れたつてカンジの顔をして修やは俺をみてきた。

「仕方ねえだろーあの子が卒業するまで誰とも付き合わないーって  
言つてんだから···」

俺は目を閉じてベンチに寄り掛かつた。

「まあ、京一らしきと言えばらしきけどな。」

修やはそつと近くにあつた石を池に投げた。

ホチヤン

「そろそろ帰らひぜ! 腹減つてきた。」

俺は立ち上がりつて歩きだした。

「そつするかあ! 俺も腹減つてきた。」

修やは立ち上がりつて歩いてくる。

「まあ、焦らずにいけばいいんじゃね？」

いつもの別れ道の手前に来た所で修也が言つてきた。

「別に焦つてないからー。」

修也の言いたい事がわかつた俺は笑いながら言つて返した。

しばらく修也と話したあと家に向かって歩き始めた俺は、いつのまにか空に星が輝いているのに気付いた。

「星きれいだな・・・あの子も星見んの好きなんだよな・・・」

俺はしばらく立ち止まって星空を眺めて家に帰った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7579a/>

---

ボクの気持ち

2011年1月20日03時46分発行